歴史散策パンフレット

宮之城島津家を学ぼう!

おもて面　宮之城島津家略系図
　　主な歴代当主
なか面　宮之城島津家墓所配置図

宮之城島津家の家紋の変遷
墓所の石造物にも彫られているので探してみよう！

宮之城島津家とは

宮之城島津家は、相州家島津忠良（日新斎）の３男尚久を初代とする島津家の分家の一つです。初めは鹿籠の地（現在の枕崎市周辺）を治めていましたが、２代忠長のときに串良、東郷を経て、慶長５年（1600 年）から宮之城の領主となり、１万石を超える石高を持っていました。初めは虎居城を居城としましたが、３代久元のときに鹿児島城下に住むことを命じられ、現在のかごしま県民交流センターの場所に屋敷が置かれました。宮之城島津家の家格は、藩主宗家、一門家（越前（重富）島津家、加治木島津家、垂水島津家、今和泉島津家）に次ぐ「一所持」に属し、その中でも上位４家の「大身分」として重んじられ、家老等の要職を務めました。

宮之城島津家が居城とした虎居城跡

宮之城島津家略系図

——：実子　═：養子
※**太字**は宗家からの養子

忠良（日新斎）
- 貴久
  - 義久
  - 義弘 ═ 家久（初代藩主）
- 垂水家初代 忠将
- 宮之城家初代 尚久（1562没）— 2代 忠長（1610没）— 3代 久元（1643没）— 4代 久通（1674没）— 5代 久竹（1693没）— 6代 久洪（1701没）═ **7代 久方（1719没）** — 8代 久倫（1766没）═ **9代 久亮（1763没）** —
  ═ 10代 久濃（1770没）═ 11代 久郷（1797没）— 12代 久儔（1827没）— 13代 久中（1827没）— 14代 久寶（1852没）═ **15代 久治（1872没）** — 16代 長丸（1927没）— 17代 忠丸（2000没）— 18代 忠之

主な歴代当主

初代当主 島津 尚久

島津忠良（日新斎）の３男として伊作亀ヶ城に生まれました。生母は「桑御前」とも呼ばれ、忠良が桑を摘む姿に見とれたのだそうです。尚久は大柄の男であったといわれ、天文23年（1554）の平松城攻めや翌年の帖佐城攻めで功績を挙げています。永禄５年（1562）３月に死去。墓所は、現在の南さつま市加世田の竹田神社にあり、宗功寺と同じお墓の形をしています。

尚久の墓

2代当主 島津 忠長

天文20年（1551）、尚久の嫡男として鹿籠に生まれました。文武に優れた忠長は、島津義久の副将として活躍。島津氏の九州統一に向けた戦いでは大きな功績を挙げました。しかし、豊臣秀吉軍の介入で島津軍が敗退した後は、しばらく人質として京都で過ごすことになりました。その頃、秀吉の怒りを買って切腹に追いやられた島津歳久の首が京都の一条戻橋に晒されました。歳久は忠長のいとこで、忠長はその首を奪い、京都のお寺で丁重に葬ってもらったそうです。その後、秀吉の朝鮮出兵では島津義弘に従い、慶長３年（1598）の泗川の戦いで明の大軍を撤退させるなど奮戦しました。また、関ヶ原の戦後処理では、新納旅庵らとともに島津家存続をかけて徳川家との交渉にあたるなど、重要な役割を果たしました。忠長は慶長15年（1610）に死去。嫡男忠倍は若くして亡くなったため、新納家の養子となっていた二男久元が宮之城島津家に戻り、３代目を継ぎました。

4代当主 島津 久通

慶長９年（1604）、久元の嫡男として日向国諸県郡真幸院に生まれました。寛永20年（1643）、父久元の死去により４代目当主となりますが、久元が藩の家老を務めていたことから、正保２年（1645）に家老となり、その任務を引き継ぎました。久通は殖産興業における功績が大きく、金山開発や川筋改修、用水路開設による新田開発などを手がけ、藩の財政立て直しにも大きく貢献しました。

また、当時の人々からは「徳源さあ」、髭の濃い顔つきから「髭図書どん」などと呼ばれて親しまれていました。寛文12年（1672）、老齢を理由に子の久竹に跡を譲り、延宝２年（1674）に亡くなりました。

島津久通像（個人蔵）

7代当主 島津 久方

元禄５年（1692）、３代藩主綱貴の子として江戸に生まれ、幼名を愛壽丸といいました。当時の宮之城島津家６代当主久洪には男子が生まれるも、皆若くして亡くなり跡継ぎがいませんでした。そこで、愛壽丸を養子に迎え後の７代当主久方となります。久方の代には藩の家格整備が行われ、宮之城家は「一所持」の家格とされました。

15代当主 島津 久治

天保12年（1841）、島津久光（12代藩主忠義の父）の二男として重富に生まれますが、宮之城島津家に跡継ぎの男子がいなかったため、嘉永５年（1852）養子に迎えられ、宮之城島津家第15代当主となりました。若くして当主となった久治でしたが、文久３年（1863）の薩英戦争や元治元年（1864）の禁門の変では藩主に代わって兵を指揮するなど、重要な役割を果たしました。

中央が島津久治（写真：尚古集成館蔵）

島津久治君謝恩之碑

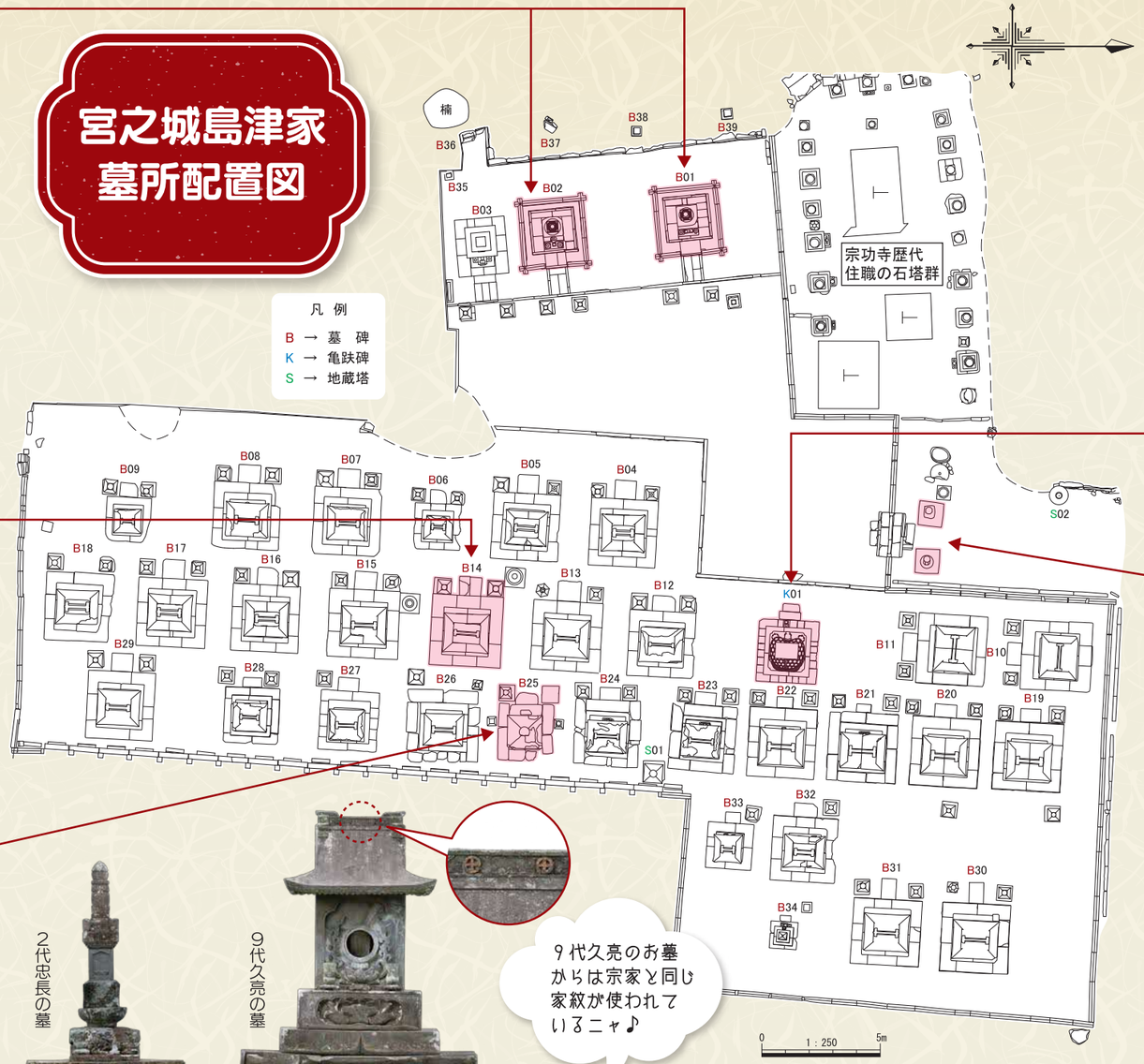
また、子弟教育に力を入れた久治は、安政５年（1858）、領内に学問を学ぶ「盈進館」と武道を修練する「厳翼館」を建設。明治４年（1871）には、吉野村の郷校建設において、同村にある自身の所有地の杉材を無償で寄付しました。

久治は明治５年正月に急死。久治の墓は鹿児島県吉野町にありましたが、平成３年（1991）に宗功寺墓地に改葬されました。その際に家臣らが供えた石碑は、盈進館を前身とするさつま町立盈進小学校に、吉野の郷校建設に対して村民らが感謝の意を込めて供えた石碑は、鹿児島市吉野町の吉野公民館に移設されました。

第十二郷校碑

令和2年3月10日、島津宗家・越前（重富）島津家・加治木島津家・垂水島津家・
今和泉島津家・**宮之城島津家**の墓所が、**国指定史跡「鹿児島島津家墓所」**に指定されました。

宮之城島津家 墓所配置図



忠長夫婦のお墓はほかと形が違うね。

忠長夫婦のお墓の形は宝篋印塔（ほうきょういんとう）といいます。ほかは江戸時代を通して石廟（せきびょう）という祠（ほこら）型のお墓になりますが、内部には宝篋印塔の一部が納められています。元々、忠長夫婦のお墓には木造の建物（霊堂）があったといわれていますので、宮之城島津家ではお墓本体としての宝篋印塔を、大切に守っていたのでしょうね。

8代久倫のお墓は大きいね！

8代久倫のとき、宮之城島津家は宗家、一門家に次ぐ家格である「大身分（たいしんぶん）」に位置づけられました。また、4代藩主吉貴の子知之助（後の9代当主久亮）を養子に迎えたことなどがお墓の規模として表れているのかもしれませんね。隣の9代久亮のお墓も大きいですよ。

2代忠長の嫡男忠倍（ちゃくなん ただます）の墓は他の石廟と比べて屋根の形が違うね。

この中で最初に亡くなったのが忠倍です。忠倍以降石廟は形を少しずつ変えながら、4代久通の墓でそのスタイルが統一されました。基礎の4面にいろいろな図が彫刻されるのも久通のお墓から始まります。

宝篋印塔

石 廟

9代久亮のお墓からは宗家と同じ家紋が使われているニャ♪

亀が背負っている碑文はたくさんの文字が彫ってあるね。

これは亀趺碑（きふひ）といいます。島津家の由来と4代久通までの功績がまとめられていて、5代久竹が祖先を称えるために立てたものです。

これを間違えないで全部読めたら、亀が川内川に水を飲みに行くそうだワン！

入口の2つの基礎は何だろう？

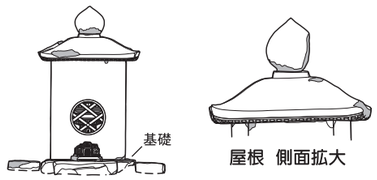
ここには鳥居がありました。一度壊れたため造り直されたのですが、平成9年（1997）の地震で壊れて、今は基礎だけが残っています。

昭和57年頃

平成3年頃

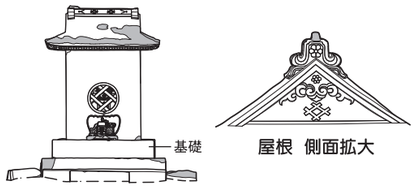
石廟の変化

1 2代忠長嫡男忠倍墓（慶長14年没）



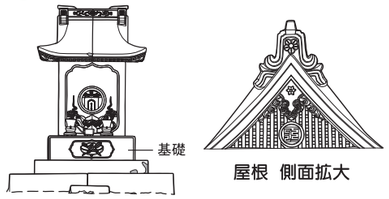
正 面　屋根 側面拡大

2 4代久通嫡男久武墓（寛永17年没）



正 面　屋根 側面拡大

3 4代久通墓（延宝2年没）



正 面　屋根 側面拡大

墓碑（ぼひ）等一覧

B01	2代忠長墓	B12	8代久倫夫人墓	B23	4代久通夫人墓	B34	11代二男尚央墓
B02	2代忠長夫人墓	B13	9代久亮墓	B24	4代嫡男久武墓	B35	不明墓（記銘なし）
B03	宮之城島津家之墓	B14	8代久倫墓	B25	2代嫡男忠倍墓	B36	不明墓（法号 心宇妙貞大姉）
B04	14代久寶夫人墓	B15	10代久濃墓	B26	〃 忠倍夫人墓	B37	不明墓（法号 口雪妙桑禅定尼）
B05	14代久寶墓	B16	8代久倫後夫人墓	B27	6代二男忠茂墓	B38	尾辻次郎兵衛殉死墓
B06	14代嫡男愛壽丸墓	B17	10代久濃夫人墓	B28	5代二男久知墓	B39	塩田分太左衛門殉死墓
B07	13代久中墓	B18	11代久郷墓	B29	11代久郷夫人墓	S01	土屋市之助殉死墓（一面地蔵塔）
B08	12代久儁墓	B19	6代久洪墓	B30	7代久方墓	S02	六面地蔵塔
B09	12代養子泰之進墓	B20	5代久竹墓	B31	7代久方夫人墓	K01	祖先世功碑（亀趺碑）
B10	6代久洪夫人墓	B21	3代久元墓	B32	9代久亮夫人墓		
B11	5代久竹夫人墓	B22	4代久通墓	B33	8代二女逸墓		

製作：さつま町教育委員会、さつま町文化財ボランティアガイド「さつまガイド」
連絡先：TEL 0996-53-1732　FAX 0996-53-0900